

日本陽電子科学会奨励賞選考結果報告

日本陽電子科学会会長 兵頭俊夫

7月8日に、本会奨励賞候補者として、選考委員会より下記の二名の推薦があり、理事会においてこの二名の奨励賞授賞が決定されましたことをご報告致します。

「イオン結晶中のポジトロニウムの新たな束縛 - 非束縛転移の発見」 井上耕治氏
「新しい陽電子蓄積法とパルス陽電子マイクロプローブの開発」 大島永康氏

経過報告（敬称略）

兵頭俊夫会長による指名により、平出哲也が選考委員会委員長に選任され、委員長が選任した4名の選考委員からなる選考委員会を設置した。選考委員会は、推薦のあった候補者について、書面により慎重に審議した結果、上記二名を奨励賞候補者として理事会に報告し、上記のとおり、7月8日に両氏の奨励賞授賞が理事会で決定された。

授賞理由は以下の通りである。

井上耕治 授賞理由

磁場下で測定して各状態を分離する手法を駆使することにより、アルカリ土類フッ化物結晶の γ - γ 角度相関の温度依存性を測定し、ポジトロニウム状態に関して、アルカリハライドとは異なり、自己束縛状態の方が安定であることを見出しました。精密な測定およびその解析から新たな現象を発見し、定量的な解釈を与えたことは高く評価できます。ポジトロニウムのこのような挙動にはフォノンが大きな役割を演じており、ポジトロニウムに限らず励起子などの素励起状態とフォノンとの相互作用の点でもインパクトのある成果です。さらに、新たなタイプの γ - γ 角度相関用検出器の開発や陽電子による材料分析などに関しても今後の陽電子科学において重要な研究展開を積極的に推進しています。以上の理由により、同氏の「イオン結晶中のポジトロニウムの新たな束縛 - 非束縛転移の発見」は、日本陽電子科学会奨励賞にふさわしいものであるとの結論に至りました。今後、日本陽電子科学会奨励賞受賞者として、陽電子科学の発展のために貢献して頂く事を期待致します。

大島永康 授賞理由

産総研における加速器ベースのパルス化されたマイクロビーム技術は、極めて重要で価値の高い研究であり、最近では、陽電子マイクロビームを大気中に取り出すユニークな研究をされています。また、陽電子蓄積法に関する **Physical Review Letters** に発表された論文は、非常にオリジナリティのある研究と高く評価できます。これらは陽電子科学分野において極めて重要な成果です。今後も、持ち前の実験技術を駆使して、インパクトのあるサイエンスの成果を挙げられることを期待致します。以上の理由により、同氏の「新しい陽電子蓄積法とパルス陽電子マイクロプローブの開発」は、日本陽電子科学会奨励賞にふさわしいものであるとの結論に至りました。今後、日本陽電子科学会奨励賞受賞者として、陽電子科学の発展のために貢献して頂く事を期待致します。

以上